

# 国際学部

## <国際学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
1	漢字と「中国語」の違い	フスレ (中国語・東アジア国際関係史)	漢字は「文字」であり、ことばではありません。ことばの背景にある文化にふれながら、日本人と中国人の思考や行動様式、価値観の違いなどを考察します。それによって、どのような興味深い発見があるかを楽しんでもらいたい。
2	移民と言語	李 守 (朝鮮語学・社会言語学)	人口が減少に転じた日本は移民の活力を必要としている。日本経済をささえる労働力として期待される移民は、異言語・異文化の担い手でもある。かれらと共存するため日本社会はなにを求められるのか？ 考える糸口を提供したい。
3	「ハングル」ってなに？	徐 珉廷 (日韓対照研究・認知言語学)	韓国語をまったく知らない学生を対象に、簡単なあいさつからハングルの構造や韓国語の母音について、文化や歴史的な背景をまじえて説明します。
4	国際協力と語学力 (ベトナムを事例に)	マーク・チャン (経済史・英語学)	ベトナムでの文化財保存協力事業を事例に、国際協力活動における語学力(たとえば、英語+ベトナム語/英語+中国語など複数の言語を駆使できるようにすること)の重要性について紹介します。
5	国際協力ってどんなことをするの？	米倉 雪子 (国際協力・持続的開発)	マスメディアで報道される国際協力活動は非常に限られています。実際はどのようなのでしょうか？ 発展途上国の現場での活動を事例に、どのような協力が現地の人々にとって本当に役に立つのか一緒に考えてみましょう。
6	スイスってどんな国？	寺島 政子 (ドイツ語・ドイツ文学)	ドイツ語圏の一つであるスイスは、国名は知られていますが、ではどんな国かと問われたら返事に詰まってしまうのではないのでしょうか。意外と知られていない面が多々あります。ハイジとチョコレート以外のスイスの姿を学びましょう。
7	スペイン語圏への招待	廣田 拓 (スペイン語・ラテンアメリカ地域研究)	スペイン語は、英語と同様に世界の国や地域を横断して話されるグローバル言語です。本講義では、まずスペインやラテンアメリカ諸国の歴史や文化を学び現状を把握します。次に、実際にスペイン語(聞く、話す)に触れてみよう！
8	「国際英語」って何？	柏木 厚子 (英語教育・応用言語学)	現在、英語は国際コミュニケーションのツールとして広く非母国語話者の間で使われています。このアメリカ英語でもなくイギリス英語でもない「国際英語」について発音を例にとりて説明します。
9	異文化コミュニケーション・ワークショップ	柏木 厚子 (英語教育・応用言語学)	文化背景の異なる人々とコミュニケーションをするための第1歩は「あれっ」と思う気付きです。具体的な事例を通じて頭のエクササイズをしましょう。
10	平等の神話と格差社会/アメリカ	川畑 由美 (アメリカ文化)	アメリカ合衆国はヨーロッパ的階級社会と反した共和国として出発した。しかし、一方ではアメリカでは、歴然とした貧富の差や地位の差が世代を超えて固定的なものとなっているという事実がある。格差社会アメリカの実情に迫ってみよう。

## <英語コミュニケーション学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
11	日本語と英語のコミュニケーションスタイル	山本 綾 (談話分析)	誰かに褒められたとき、相手の話がとてもおもしろいとき、討論を始めるとき——日本語話者と英語話者では、こうした場面でのふるまいに様々な違いがあることがわかっています。その違いについて、ペアやグループでのアクティビティを通して体験しながら学びましょう。
12	今週のニュース	ケビン・ライアン (メディアコミュニケーション論)	Internetを使用し、最近のニュースに関するビデオや英語の文章を教材とします。内容理解、ディスカッション、ディスカッション内容を今後の豊かな生活に結びつけるためのアイデアを出し合う、という順序で授業を進めます。授業は英語です。
13	英語で紹介する日本社会	重松 優 (日本学)	私は、ふだん、留学生向けの授業も行っています。外国人に日本の文化を紹介するときに、どのようなことが大事なのか、お話しします。
14	英語コミュニケーションのためのスキルと方策	小川 喜正 (英語教育・英語学)	最初に文脈における音変化を理解した上で、発音練習を行う。その後、有用な決まり文句を使って、ペアあるいは小グループで簡単な会話練習を行う。

## グローバルビジネス学部

### <ビジネスデザイン学科>

講座No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
15	変わるメディアビジネス	前田 純弘 (メディア・ICT)	マスメディアの王様と見られていたテレビも、ネットの影響を受けて岐路に立っています。どのようなことが起きているのか、データや事例を示しながら解説します。
16	グローバルに持続可能な日本型おもてなし経営	飴善 晶子 (ホスピタリティ、ホスピタリティ・マネジメント)	「いい会社」とは、どのような会社経営を行っているのが、皆さんと考えながら、価値を創出する日本型おもてなし経営について解説し、その基本が日常の生活習慣の中から培われることとお話します。

### <会計ファイナンス学科>

講座No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
17	デートに行くかバイトに行くか	山田 隆 (ファイナンス)	人生は自分が選択したもので決まると思われていますが、実は「選ばなかったもの」にも大きな影響を受けているのです。どうしたら正しい価値判断ができるのかを講義します。
18	高校生活とパーソナルファイナンス	関 憲治 (財務管理論)	生活していく上で必要となる「お金」の知識を学びます。特に、今後のライフプランとそれを支える「お金」に焦点を当て、必要な知識を説明した上で、一緒に考えてみます。
19	女性のキャリア形成とビジネス	小森 亜紀子 (教育社会学)	広義の「キャリア」とは、長いタイムスパンの仕事や生活のことです。どのようなライフスタイルで生きていくのか、そのために大学時代に何をするのか、一緒に考えてみませんか？
20	日本とフランスの大学生女子の意識の差	小森 亜紀子 (教育社会学)	フランスと日本の大学生女子の考え方、どこが似ていて、どこが違うのか、違うとすると何が原因なのか、データを比較しながら一緒に考察しましょう。
21	簿記会計の魅力と将来性	加納 輝尚 (会计学・税務会計)	簿記会計を学ぶことは皆さんの将来のキャリアアップにつながります。そんな奥の深い簿記会計の世界を、皆さんに共に見ていきたいと思えます。
22	経験マーケティング： なぜディズニーリゾートに心惹かれるのか	高木 俊雄 (経営学)	なぜ皆さんはディズニーランドやディズニーシーに何度も行きたくなるのでしょうか？このことについて、マーケティングにおける良い「経験」の観点から考えていくことにしましょう。

<日本語日本文学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
23	古事記の世界 —ヤマトタケルノミコト—	鳥谷 知子 (上代文学)	ヤマトタケルノミコトは大和国平定において、悲劇的な最期を遂げ、その魂は白鳥と化して天翔る。東征において倭建を助けるのも死に導くのも、草薙剣であった。悲劇の物語と剣の関わりを考えたい。
24	源氏物語絵巻	胡 秀敏 (中古文学)	十二世紀に完成した「国宝源氏物語絵巻」は現在、当初の4分の1しか残っていないが、物語のエッセンスが描かれている。文字だけでなく、絵巻を通して王朝貴族の恋愛や遊びなど、日常における美的センスをとらえ、源氏物語の魅力に迫りたいと思う。
25	<夢>から見る古典の世界	丹下 暖子 (中古・中世文学)	現代のような科学的解釈がなかった時代、人々は<夢>というものをどのように捉え、行動していたのでしょうか。平安時代の貴族の日記や物語を読み解きながら、考えてみましょう。
26	室町時代の流行歌謡	山本 晶子 (中世文学)	室町時代の流行歌謡を集めた『閑吟集』の歌を取り上げ、中世という動乱の世に生きた人々の思いを読み解きます。視聴覚資料を用いて、芸能の中で歌い継がれている小歌もあわせて紹介します。
27	国民的名作「坊っちゃん」の魅力	笛木 美佳 (近代文学)	100年以上も前に書かれた「坊っちゃん」はなぜ今でも絶大な人気を誇っているのでしょうか。歯切れの良い語り口？ 明快なストーリー？ 人好きのする主人公？ それだけではない、心の琴線に触れるものがあるのです。
28	太宰治「トカトントン」を読む	山田 夏樹 (近代文学)	太宰治「トカトントン」では、終戦後の世界で何かを行おうとする度に幻聴に悩まされ、何も出来なくなる青年と、それをたしなめる某作家の姿が描かれます。その構図にどのような意味があるのか、解釈していきます。
29	樋口一葉の「日記」を読む	吉田 昌志 (近代文学)	五千円札の「顔」になっている樋口一葉は、24歳で亡くなる直前まで、詳細な日記をつけていました。この日記を読みながら、若い女性のさまざまな心のゆらぎを見つめてみたいと思います。
30	石川啄木と唐詩選	市川 清史 (中国文学)	石川啄木は若い頃から唐詩に深く親しんでおり、「一握の砂」・「悲しき玩具」の短歌には多くの影響がみられることが指摘されている。高校生にも漢詩に興味を持ってもらうためにこれをわかり易く話していきたいと思う。
31	少女小説を読む	福田 委千代 (児童文学)	戦前に書かれた「少女」のための小説を読みます。主人公である「少女」の葛藤を通して、現代とは異なる子ども観や家族観が見えてくることを確認しましょう。併せて、和装が主流だった頃の女子のファッションや流行なども読み取ります。
32	気になる日本語	須永 哲矢 (日本語学)	敬語・ら抜き言葉・若者言葉など、日頃ちょっと気になる日本語について、言語研究という立場からの考え方を紹介する。その中で古典文法と現代語のつながりについても簡単に触れ、古典学習の一助としたい。
33	日本の方言	嶺田 明美 (日本語学)	日本は地域によって使われることばが違います。いわゆる方言です。なぜ、地域によって違いがあるのでしょうか。共通語と方言が接触したときにどのような現象が起きているのでしょうか。実際の方言を取り上げながら考えます。
34	日本語の文法	植松 容子 (日本語教育)	「私は鈴木さんにプレゼントをあげました」は言えるけど、「鈴木さんは私にプレゼントをあげました」と言えないのはなぜでしょうか。英語だったらどちらも“give”と言えます。授受表現を例に、外国人に教えるための日本語の文法について考えてみましょう。
35	外国人との会話	大場 美和子 (日本語教育)	日本語を学習している外国人が日本語で日本人と話す時、何が難しいと感じるのでしょうか。日本人が何に気を付けると外国人は話しやすいと感じるのでしょうか。外国人との楽しい会話をめざして、日本人の話し方の特徴についてお話しします。
36	外国人の日本語	西川 寿美 (日本語教育)	日本国内だけでなく世界各地で日本語を学ぶ学習者が増えています。外国語として日本語を教えると、母語話者が考えたこともない問題に遭遇することがあります。学習者の日本語の誤用などを取り上げて外国語として学ぶときの日本語の特徴について考えます。
37	日本語を外国語として学ぶとは	横山 紀子 (日本語教育)	日本語を外国語として学ぶ学習者は、どのように日本語を学び、どんな順番に何ができるようになっていくのか、言語学習の方法や過程の一部をご紹介します。みなさん自身の外国語学習についても振り返る機会としていただければよいと思います。

## <歴史文化学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
38	幕府とは？大名とは？	野口 朋隆 (日本近世史)	江戸時代は、幕府と藩からなる幕藩体制を基本的な枠組みとする社会でした。しかし幕府のなかの将軍や大名はどのような関係にあったのでしょうか。講義では新しい研究成果を踏まえて分かりやすく説明していきます。
39	過去を「体験」しよう	松田 忍 (日本近現代史)	私たちの身体は過去に行くことはできません。しかし残された史料を通じて過去をかいま見ることができます。追体験することもできます。そうですね、さしあたり60年前に行ってみましょうか。この日本列島に私たちの知らない異世界が広がっているはずですよ。
40	音楽からみるヨーロッパ史	山本 成生 (西洋史)	歴史は王様や戦争、法律だけじゃありません！ヨーロッパの歴史において重要な役割を担った「音楽」を見て、聴いて、考えてみましょう。五線記譜法や「クラシック音楽」がなぜ西洋で生まれたのか？ バッハの宗教曲でなぜ私たちが感動するのか？ 世界大戦と音楽家の関係は？
41	東洋とは何か？	牧野 元紀 (東洋史)	東洋とは西洋(欧米)との交流から生まれた歴史的地理概念です。「非」西洋の地域は日本を含めて全て東洋です。東洋は西洋の人々によっていかに「発見」され、なぜ「記録」されたのか。デジタル史料を活用しながら一緒に考えてみましょう。
42	絵を見る／絵で考える	木下 亮 (西洋美術史)	絵を細部まで見る。絵を比べて見る。見えなかったことが見えてくる。絵を注文した人のことを考える。描いた画家のことを考える。誰が見たのかを考える。一枚の絵からその時代が見えてくる。それを体験しましょう。
43	民俗と芸能	大谷津 早苗 (日本芸能史)	日本各地に伝承されている民俗芸能を取り上げ、民俗学や芸能史・宗教史・国文学などと関連させながら、伝承資料としての民俗芸能の特色と価値を考えます。また、芸能表現の背後にある日本人の心意も探してみたいと思います。
44	模様染めにみる装い文化 —正倉院裂から浴衣まで—	安蔵 裕子 (服飾文化史)	「衣を着る」という行為を模様染めの歴史から見てみましょう。例えば型染めの造形表現に、日本独特な美へのこだわりが発見できます。実際に江戸小紋や中形の染めを体験します。
45	ベトナムの遺跡を掘る	菊池 誠一 (考古学)	17世紀の日本とベトナムは、たいへん近い関係にあった。ベトナムのホイアンに当時の日本町があり、発掘調査を通してその実態を解明している。海外における考古学調査の様子を紹介したい。
46	発掘から何がわかるか	小泉 玲子 (日本考古学)	考古学の調査研究によって、どのように古代の人々の暮らし(食生活や埋葬など)を復元することが出来るかについて、大学で実施している発掘調査の例を交えて講義します。
47	科学を用いて江戸・明治の匠の制作技術を探る	田中 眞奈子 (文化財科学)	科学による分析技術を用いることで、秘伝とされてきた文化財の材料や制作技術に関する情報を得ることが出来ます。日本刀、自在置物、絵画などの具体的な分析を通してわかってきた、江戸・明治の匠の高度な技術を紹介します。
48	江戸の「新しもの好き」たち —西洋画へのあこがれと受容—	鶴岡 明美 (日本美術史)	18世紀後半、江戸時代も半ばを過ぎるころ、オランダや中国といった限られた国々との交流を通じてもたらされた西洋画に魅入られ、その表現に倣って作品を残した画家たちがいました。彼らの努力の跡をたどるとともに、こうした西洋風の画法が当時の人々の好奇心を刺激したことで生まれた、洋風の浮世絵版画についても紹介します。



# 人間社会学部

## <心理学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
49	こころの健康と病気	島谷 まき子 (臨床心理学)	こころの健康と病気についてわかりやすく解説し、こころの病気に対する誤解をなくし、正しい理解を得られるようにする。また、こころの健康と病気に関わる臨床心理士が働いている職種と仕事について紹介する。
50	幼児の遊びにみる心の育ち	藤崎 春代 (発達心理学)	「よく学び・よく遊べ」といわれるが、遊びはなぜ大切なのだろうか？遊び研究者は、子どもが遊びの中で何をしているのか、遊びを通してどのような育ちが促されるのかを検討してきた。遊びの重要性について考える。
51	対人関係認識の諸問題	藤島 喜嗣 (社会心理学)	対人場面でどう振る舞うかを考えるとき、自分が相手をどのように見ているか、相手から自分がどのように見られているかの認識は大きな影響力を持ちます。この問題を社会心理学の知見から紐解きます。
52	あなたは強い意思をもっていますか？	本多-ハワード素子 (産業・組織心理学)	あなたは意思が強いですか？「周りにつられて」という経験を誰もがもっています。自分の意思で行動しているようでも、実は、無意識に周りの影響を受けていることがあります。産業組織心理学と社会心理学の研究から、身近な話題と研究をご紹介します。
53	初期経験と精神発達	松澤 正子 (発達心理学)	乳児は、見たり、聞いたりした経験をもとに、その後の人生を生きていくために必要なことを学びとっています。乳児が経験から何を学ぶのか、そして、その後の精神発達にどのような影響を与えるかをお話します。
54	こころを知る …カウンセリングによる本当の自分探し	山崎 洋史 (臨床心理学)	カウンセリングは言葉や非言語的コミュニケーションを通して、人間のこころに働きかけながら、行動変容を援助していくことを目的としている。その可能性を知り、自己理解・他者理解の深化をハイライト体験していく。

## <福祉社会学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
55	21世紀に求められるソーシャルワーカー	北本 佳子 (ソーシャルワーク)	少子高齢社会の進展の中で、ソーシャルワークによる支援がますます注目されています。ソーシャルワークを担う専門職であるソーシャルワーカー について、その意義や役割などを多面的に学びます。
56	患者の身体ー心理ー社会を支援する	高橋 学 (医療福祉論)	人が『病』を持つことによって体験するさまざまなストーリーを理解し、心の回復や社会的復権を支援する技術について考えます。
57	子ども施策の現在・過去・未来	原 史子 (児童家庭福祉論)	日本で少子化が社会問題とされてから随分たちますが、日本の少子化はいつから始まりその背景には何があったのでしょうか。子ども施策の現在を過去から考え、今後何が必要なのか考えてみましょう。
58	子どもの「居場所」づくり	渡辺 剛 (体育学)	親子のスポーツクラブと、学童保育と習い事を融合したアフタースクールの実践を通して、子どもの「居場所」づくりと、新しいコミュニティの創出について解説します。
59	保育者が担う子育て支援	佐藤 千晶 (生活福祉、子育て支援)	現代社会において、なぜ子育て支援が必要なのか。また、いかにして保育者がそのニーズに応え得るか…。保育者が担う具体的な子育て支援方法の事例に学びながら、考えてみましょう。
60	施設や里親家庭で暮らす子どもたち	永野 咲 (社会的養護・子ども家庭福祉)	虐待や親の病気などの理由によって、家庭で暮らすことが難しい子どもたちが、施設や里親家庭などの「社会的養護」のもとで生活しています。家庭外で生活する子どもたちの実情を知り、社会の役割について考えてみましょう。
61	暴力のある家庭環境で育った子どもへの支援について	野坂 洋子 (子ども家庭福祉)	暴力のある家庭環境で育った子どもへの支援を行う上でのストレングス視点の重要性について考えてみましょう。
62	ライフデザインと生活経営	伊藤 純 (生活経営学)	生活経営と社会福祉資源の活用はコインの裏表のように密接に関連しています。本講義では、人生100年時代の私たちの生活経営上の課題を考え、必要な社会福祉資源や獲得すべき生活福祉経営能力について考えます。
63	福祉サービスへのアクセシビリティー介護保険サービスの利用支援を中心にー	李 恩心 (高齢者福祉、地域福祉)	介護保険制度の概要や介護サービスの利用しやすさ(アクセシビリティ)について一緒に考えながら、生活課題を抱えている人々に福祉サービスをつなげるソーシャルワーカーのアプローチを学びます。
64	少子高齢化社会のすがたと高齢者を支援すること	中矢 亜紀子 (高齢者福祉)	急速に進む少子高齢化は、わたしたちの暮らしにどのような影響をもたらすのでしょうか。現在の日本のすがたを確認しながら、高齢者をどのように支援したらいいのかを考えていきます。
65	障害とは何かを考える	根本 治代 (障害者福祉論)	障害をもつ人も、もたない人も互いに支え合う社会が求められています。障害とは何か、障害をもつとはどのようなことなのかを、日常生活を通して構造的に考えていきます。
66	メンタルヘルスとソーシャルワーク	吉野 比呂子 (精神保健福祉)	我が国における今日的な精神保健の課題(いじめ、虐待、不登校等)を取り上げ、関連した精神疾患とソーシャルワークについて学んでいきます。
67	ことばの発達とその障害	進藤 美津子 (言語聴覚障害学)	乳児から幼児期に至る子どものことばの発達について解説し、順調にことばや発音が発達しない要因やことばの遅れの対処法について考えます。
68	大人のコミュニケーション障害とリハビリテーション	山澤 秀子 (言語聴覚障害学)	脳梗塞や脳出血などの後に起こりがちな「ことば」の障害にはどのようなものがあるか、具体的な症状やリハビリテーション、支援方法について学びます。
69	コミュニケーション障害と言語聴覚士の役割	淵田 隆史 (言語聴覚障害学)	高齢化社会における疾病構造の変化の中で、コミュニケーションに何らかの問題を抱える人の数も増加しています。コミュニケーション障害の種類や症状、医療専門職である言語聴覚士に求められる役割について学びます。

## <初等教育学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
70	親と子どもの発達心理学	石井 正子 (発達心理学)	子どもの時は大好きだった親がなんだかうっとうしくなったのはいつ頃だろう。けっこう感謝もしてるけど、顔をあわせるとどうしてもうるさいなあって思っちゃう。それは、あなたが成長している証拠。自分の発達の過程を客観的に見つめてみましょう。
71	現代の子供の家庭生活 ー子どもの食生活の特徴を中心にー	今井 美樹 (家庭科教育)	小学校家庭科の学習内容や、子どもたちの家庭生活、特に現代の子どもたちの食生活の特徴について、教科書・資料等を通して考えます。
72	「友達」問題から知る教育文化	歌川 光一 (教育と社会)	青少年にとって学級内の人間関係作りは重要な関心事の一つとなっています。それを象徴するスクールカーストなどの「友達」問題を軸に、社会の変化と教育文化の関係を考えてみましょう。
73	赤ちゃんの笑顔を支えるために ～乳児保育に必要な養護技術	遠藤 純子 (保育学)	人生の最初期に要求や気持ちを受け止められながら育つことは、その後の成長の大きな糧になります。乳児保育に必要な養護技術を学びながら、一人ひとりが大切に育てられるために私たちができることを考えていきましょう。
74	教師という仕事の大切さ ー理科授業を中心にー	小川 哲男 (理科教育)	授業では子どもの知識を磨くとともに、心を育てることが大切なねらいです。理科の授業において、子ども一人ひとりの見方や考え方を重視し、子どもの実感を伴った感動的な理解を深める方法について、実技も含めながら具体的な講義を進めます。
75	英語ボキャ筋トレ法 -単語力を身につけるとは？-	國分 有穂 (英語科教育)	コミュニケーションの媒体としての英語の基礎力を身に付けるためには、どのようにすればよいのでしょうか？英語の語彙力アップのコツは何でしょうか？様々な語彙学習のストラテジーを通して、自分に適した方法を探ってみましょう。
76	音を聴くということ	木間 英子 (音楽科教育)	私たちの周りには音や音楽があふれています。耳はそれらのすべてを平等に聞きとっているようで、実はそうではありません。聞き逃している素敵な音もあれば、うるさいのに平気で聞き続けている音楽もあります。一度、身の回りの音に耳を澄ませてみましょう。そして、子どもたちにとって快適な音環境とは何かを考えてみましょう。
77	子どもの数概念の形成に基づく「数」の指導	斉藤 規子 (算数科教育)	「1. 2. 3…」と唱えられたら数のことを分かっていると考えるのでしょうか。小学校入門期における「数」の指導について、子どもの数概念の形成を基に考えてみましょう。
78	教師という仕事の大切さ ー理科授業を中心にー	白敷 哲久 (理科教育)	授業では子どもの知識を磨くとともに、心を育てることが大切なねらいです。理科の授業において、子ども一人ひとりの見方や考え方を重視し、子どもの実感を伴った感動的な理解を深める方法について、実技も含めながら具体的な講義を進めます。
79	What is History? ー考える社会科ー	鈴木 円 (社会科教育)	最近の社会科では「考える」ことが重視されています。イギリスの小学校の歴史単元“What is History?”の教材を用いて、暗記科目でない歴史の可能性を探ります。歴史に対する考え方が変わります。
80	教師の対応	富本 靖 (体育科教育)	いろいろな場面(学習面・生活面)において教師は児童・生徒にどのように声をかけ、対応するのがよいのかについて解説します。
81	日本・文化・ことば	豊田 千明 (日本文学)	さまざまなものを例にあげながら、ことばの背景にある文化について考えていきます。アジアの中でも独自の文化を形成した日本という国についても考えます。
82	二十世紀音楽の冒険	永岡 都 (音楽学)	あなたは「音楽」と聞いて何を連想しますか？「音楽」の伝統的な概念を大胆に破壊し、「音楽とは何か」を真摯に問い続けた二十世紀の音楽家たちの活動を描きながら、現代社会と音楽の関係を見つめます。
83	比べてわかるヒトらしさ ーチンパンジーにもできること、ヒトにしかできないことー	中村 徳子 (比較発達心理学)	ヒトにしかできないことって何だと思いませんか？チンパンジーは系統発生的にみてヒトにもっとも近縁な種です。チンパンジーの赤ちゃんの発達を比べることで、ヒトに固有な知性を探ってみましょう。
84	日本画と景色文化	早川 陽 (日本画・美術教育)	絵画として描かれてきた景色とは何か。風景画と山水画の揺れから表れた日本の景色の特徴について明らかにします。また造形・図画工作・美術教育が学校の授業にあることの意味、生活と美の関係についても身近な視点から解き明かします。
85	昔話のいろいろ	平野 晶子 (国語科教育)	昔話について考えます。作家の書いた物語との違いは何か、そこに隠れているものは何か、国語で学ぶのはなぜか、いくつかの昔話を題材にお話しします。
86	愛をもって新しい時代の扉を開く	松本 淳 (比較教育・教育実践)	心と現実がつながっていることを自らの身体を使って理解します。自らの気持ちを転換することによって、現実を切り拓いていく実践へのアプローチと、学生たちの実践例を紹介します。
87	こども ころこ ことば	木村 英美 (保育実践)	こどもの言葉に耳を傾けた時、その響きや表現に気持ちが揺り動かされ共感を覚えたり感動したりします。子どもの心に寄り添うためのひとつの方法としてこどものことばの力や意味を考えてみましょう。
88	子どもと環境 ー北欧の保育園の画像を手掛かりにー	鈴木 法子 (幼児教育)	幼稚園・保育園・子ども園の子どもたちにとっての教科書とは、園の環境そのものです。環境に働きかけて園児は何をを学んでいるのでしょうか。デンマークの保育園の環境の画像から一緒に考えてみませんか。
99	指導の難しい子どもの支援	鶴田 麻也美 (生徒指導)	教室には学習や生活面で指導の難しい子どもたちがいます。ほめても、叱ってもうまくいかない。そんなとき、教員になにができるのでしょうか。担任の視点、チーム学校・組織としての視点、生活指導や特別コーディネーターとしての視点で、考えていきます。



## <現代教養学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
100	熱帯林の魅力とその保護	常喜 豊 (生態学)	30年以上にわたる東南アジア熱帯林での生物調査を通して得た、熱帯の生物の多様性や人々の生活をスライドで紹介いたします。さらに、伐採で減少しつつある熱帯林の保護対策としての植林やアグロフォレストリーなどを考えていきます。
101	生き物をよぶまちづくりを考える —チョウを指標にして—	常喜 豊 (生態学)	都市環境において、チョウ類が、いつどんな花に吸蜜に訪れるかを調べた結果をもとに、どのような植物を育て、また今ある街の自然をどう活用していけば、人と他の生き物が共存するまちづくりができるのかを考えていきます。
102	くらしと環境 —エコライフの実践—	瀬沼 頼子 (地域環境計画・農村計画)	今日の環境問題の要因のひとつである現代のライフスタイルについて、あらためて「もったいない」視点から考えてみます。さらに廃棄物やエネルギー問題などからくらしと環境問題とのつながりを捉え、次世代の人々のために、私たちが取り組むべきことは何かを考えていきます。
103	多様な主体が取り組むまちづくり —まちづくりを楽しむ—	瀬沼 頼子 (地域環境計画・農村計画)	はじめにまちづくりとは何かを分かりやすく説明していきます。誰もがどこかのまちの住民として住んでいます、そのまちを支えているのはいったい誰なのか？ 人任せではなく、みんなが楽しみながら主体的に関わっていけるまちづくりとはどのようなものなのか考えていきます。
104	地域社会の活性化 —元気な農山村地域を考える—	瀬沼 頼子 (地域環境計画・農村計画)	グリーン・ツーリズムやエコツーリズム、都市農村交流など、農山村地域は都市生活者にも身近な存在になっています。一方、農山村地域の課題として活性化が挙げられています。これは都市部においても近年の課題ですが、今回は農山村地域を対象に地域活性化を考えていきます。
105	住みたい街ポートランドと東京	鶴田 佳子 (建築・都市計画)	全米一住みたい街と注目されているアメリカ西海岸オレゴン州ポートランド。豊かな都市文化や生活空間を通して東京と比較します。住む場所としての都市の魅力と課題は何かを考えていきます。
106	日本の教育の特徴と不思議さ —諸外国との比較を踏まえ—	シム チュン・キャット (教育社会学)	「他を知り、己を知る」という言葉のように、自国をより知るためには他国との比較が重要です。この講義では、諸外国との比較を通じて日本の教育制度の特徴への理解を深めることを目指します。
107	女子大学は必要なのか？	シム チュン・キャット (教育社会学)	欧米社会では女子大学の存在が薄れつつある中、日本では全大学数の約1割を女子大学が占めているのはなぜでしょうか。女子大学の存在が男子への逆差別にならないかなどの課題も含め、その存在意義について生徒たちと議論を行います。
108	あなたは占いを信じますか	シム チュン・キャット (教育社会学)	宗教への関心が薄い日本人でも占いなら信じるのはなぜなのか、そもそも占いと宗教はどう違うのか、一方で世界中の多くの人々が神様の存在を信じている理由は何なのか、グローバルを語る前にまず宗教について考えてみませんか。
109	「映像と社会」—「伊豆の踊子」 (川端康成原作)に見る“社会”—	福田 淳子 (日本文学:近現代)	過去6回にわたって映画化されている川端康成「伊豆の踊子」は、様々な意味で“社会”と関わりを持つ作品です。文学・映像という作品と社会との関係を、映像表現と言語表現との比較を交えながら、考察します。
110	つながりの科学 —スマホ・SNSと人間関係—	天笠 邦一 (メディア論)	スマートフォンが普及し、SNSの利用が容易になったことで私たちは他人とつながりやすくなりました。この授業では、その「つながり」の力と限界について学術的な視点から再考し、今後の社会のあり方を考えます。
111	アイデア創発ワークショップ	丸山 信人 (情報文化論)	私たちの社会には、さまざまなコンテンツやメディアが溢れています。これらのコンテンツやメディアは、どのようなアイデアや企画で創られているのでしょうか？ そのアイデアを創造・発信する力の源泉とは何でしょうか？ ワークショップ形式で、そのアイデアや企画を考える学びと気づきを身に付けます。
112	メディアの報道は「真実」なのか？	小川 豊武 (社会学・メディア研究)	私たちは、日々、テレビやインターネットなどで様々なニュースに接していますが、それらは決してたった1つの「真実」をありのままに報道しているわけではありません。メディアは世界を様々な形で切り取って、みずから新しい現実をつくっています。本講義では、こうしたメディアの現実をつくる働きについて学びます。
113	バナナのポリティカル・エコノミー	志摩 園子 (国際関係論)	安価でおいしいバナナから、国際関係を考えてみませんか？ バナナの原産地と消費地はどこ？ 植民地とバナナの関係は？ バナナをめぐる、中南米とアフリカ、そして、ヨーロッパの関係を考えると？ 冷戦の終結とバナナの関係は？
114	人はどうして国境を越えるのだろうか？ —移民と労働者—	志摩 園子 (国際関係論)	国境を越えて移動する人は、どんな理由があるのだろうか？ 移民は難民とどこがちがうのだろうか？ 移民を送り出す国には、どのような社会背景があるのだろうか？ 国境を越えるのは移民だけだろうか？ いくつかの例を取り上げながら、一緒に考えてみませんか。
115	海は国際社会をつなぐ —環境と国際社会—	志摩 園子 (国際関係論)	海を通して進む経済発展は？ 経済発展は海になにをもたらしたのか？ 海にもたらされた環境問題は？ 経済発展が重要、それとも、環境問題の解決が重要？ 冷戦の海から協力の海になったバルト海の環境から国際社会を考えてみましょう。
116	ことばと社会	フフバートル (社会言語学)	「ことば」と言うと、思い浮かべるのが「国語」や「外国語」でしょうが、世界のほとんどの国が多民族国家なので多くの言語問題などを抱えています。この授業ではことばと社会との関連について各国の状況やその理論について学びます。
117	グローバル社会がもたらす 「食」の変化	粕谷 美砂子 (生活経営学)	食と農・環境との関わりについて、「せたがやそだち」の野菜から世界の食をとりまく状況まで、地産地消、六次産業化、フード・マイレージ、エシカル消費、ハラールなどを題材に取り上げます。グローバル社会と食とのかかわりについて考えてみましょう。
118	最新のWebデザインとその技術	田中 均 (図書館情報学)	インターネットを使うときにスマートフォンやタブレットを利用することが広がっています。それに対応してWebサイトのデザインが変革期を迎えました。モバイルファーストデザインやフラットデザイン、UX/UI、Webユニバーサルデザインなど最新のWebデザインとその技術を紹介します。
119	絵本と読み聞かせの意味と意義	池田 美千絵 (図書館情報学)	子どもと絵本の出会いを作るものとして読み聞かせがあります。読み聞かせとは、読み聞かせに適した絵本とは、どういうものなのでしょうか。実際に読み聞かせを体験しながら考えていきます。いくつかの絵本も紹介します。

〈健康デザイン学科〉

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
120	皮膚の科学	坏 信子 (皮膚科学・化粧品学)	私たちが地上で生活できるのは、皮膚という器官が私たちの身体を守っているからです。最近のトピックスも加えて皮膚の構造と機能、日常のお手入れについてお話します。
121	ダイエットと運動を科学する	白川 哉子 (健康科学)	ダイエットになぜ運動が必要であるかを、運動による身体変化をもとに考える。健康的な身体と運動との関係を理解し、ダイエットになぜ運動が必要か考えましょう。
122	病気と栄養	花香 博美 (医化学・分子生物学)	病気をしたとき、どのような食事をとればよいのでしょうか？医学と栄養がどのように結びつくのか、研究医の視点からお話します。
123	食事を設計してみよう	不破 眞佐子 (給食運営論)	大切な人への食事を考えてあげたい！でも、相手に喜んでもらえるにはどうやって考えたらよいのでしょうか？献立作成の時に、栄養士が工夫している点を一緒に考えてみましょう。
124	食品衛生を学んで安全安心	村松 朱喜 (食品科学・応用微生物学)	私たちは、安全で品質のよい食品を求めることが多いと思います。しかし、せっかく手にした食品もその扱い方を間違えると皆さんの健康を損なうものにもなりかねません。食品衛生について少し専門的なことを学んで、食生活の安心安全について考えてみませんか。
125	巧みな身体運動の科学	山中 健太郎 (身体教育学)	ヒトは様々な身体運動を巧みに行うことができます。歩いたり、箸を使ったり、といった運動をふだん何気なく行っていますが、これらは長い年月の学習によって身につけたものです。こうした身体運動を巧みに行うメカニズムと、そこにうまい・へたが生じるわけを考えてみたいと思います。
126	疲れてしまった時、あなたは何を食べますか？	渡辺 睦行 (食品機能学)	勉強で疲れてしまった時、運動で疲れてしまった時、あなたは何を食べますか？甘いものですか？酸っぱいものですか？ところで、寝すぎて疲れてしまった・・・なんてことはありませんか？疲れとは一体何なのか？そして、疲れてしまった時、一体に何を食べたら良いのか？考えてみましょう。
127	食と健康 ーバランスよく食べるー	蔵迫 栄美子 (栄養指導論)	栄養・運動・休養のバランスをとることが、健康へとつながります。自分の日頃の食生活を振り返り、ある日の朝食を例にあげ、実際にどう食べたらよいのか、それぞれに考えてみましょう。



## <管理栄養学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
128	微生物と人間との係わり	飯野 久和 (微生物学)	ヒト消化管下部には百兆もの微生物が棲息し、腸内菌叢と呼ばれる生態系を維持している。この腸内菌叢の形成・維持と食生活あるいはライフステージから解説するとともに、生体防御すなわち免疫系についても解説する。
129	食行動の科学	石井 幸江 (栄養教育論)	日頃、何気なく、行っている食行動も理論で裏づけされています。その食行動理論とは何であるか？ そして、それを利用した食生活の改善はどのようにしたらよいか。皆さんの食行動を振り返りながら、一緒に健康的な食生活を考えてみましょう。
130	老化(寿命)と栄養	海老沢 秀道 (高齢期栄養・臨床栄養学)	食事は寿命を調節できる唯一のものであることは、案外知られていない。食事を制限して肥満を防ぐと、ほとんどの生活習慣病を防ぐことができる。寿命を延ばす「長寿命遺伝子」も食べ物と関係した働きを持っている。本講義では、寿命と遺伝子の関係をわかりやすく解説する。
131	キレイな子ども(おとな)の増やし方	海老沢 秀道 (高齢期栄養・臨床栄養学)	絶食させて極端な空腹状態にしてから甘い食べ物をあたえると、ラットの脳内では「麻薬中毒」と似た現象が起こっていて、「禁断症状」も引き起こされる。不規則で食事を食べない時間が長く、食事の時には好きなものを食べる生活は、キレイな子供(大人)を作っている？！ を解説する。
132	ギャップ！ 目は口よりも食べている！	海老沢 秀道 (高齢期栄養・臨床栄養学)	見た目からの評価では、それほど“食べている”とは思っていない。でも、実際に食べているエネルギー量(カロリー)を測定してみると、目で見えて評価したエネルギー量よりも、やや多い。すなわち、目(記憶、記録、見た目)から得た情報から推定したエネルギー量よりも食事のエネルギー量は低く見積もられていることが、わかっている。すなわち私たちは、“見た目”からのエネルギーよりも、“口に入れたエネルギー”の方が少ないと、(勝手に)評価していることがおおい。“目は口よりも食べている”のである！本講義では、思い込みと現実の間の“ギャップ”を理解する” キーワード ①食べていないつもりでも食べている、②運動によるエネルギー消費は案外少ない、③太りやすい「体質」は存在する。
133	酸化ストレスとタンパク質	川崎 広明 (生化学)	酸素は体を傷つける凶器(酸化ストレス)にもなり、タンパク質を傷つけて病気の発症などにつながるということが知られています。本講義では酸化ストレスによるタンパク質傷害について、最新の研究成果も交えて解説します。
134	食べ物と健康の因果関係を探る	小西 香苗 (公衆栄養学)	食事として食べた食品(栄養素など)が我々の健康を左右していることは良く知られています。例えば、高食塩摂取と高血圧(脳血管疾患)発症との関連、高コレステロール摂取と冠動脈疾患(心筋梗塞など)との関連など。では、それら食べ物と健康(病気)との因果関連は科学的にどのようにして明らかになるのでしょうか？ その実際を解説します。
135	「おいしさ」のひみつ	佐川 敦子 (調理科学・調理学実習)	私たちが感じる「おいしさ」とは、どのような要因によって影響をうけるのか、客観的な視点で「おいしさ」を解説します。「おいしさ」を決める要因には食べ物そのものの状態(味の他にも温度、香り、音、外観、テクスチャーなど)だけでなく、食べる人の状態(喜怒哀楽の感情、食欲状態、食文化など)も含め、様々な要因があることを紹介します。
136	生活習慣病と食生活	清水 史子 (臨床栄養学)	栄養の偏りが病気の原因や治癒を遅らせる原因になることがあります。肥満症や糖尿病などの生活習慣病が増加する一方で、無理なダイエットに起因する貧血 や低栄養なども問題となっています。そこで、本講義は健康と食生活について、身近な話題を中心に解説します。
137	食品学実験	竹山 恵美子 (食品学・実験)	身近な食品にかかわる題材として「食品の褐変」をとり上げる。褐変の機構には大きく分けて、酵素の関与するものと、しないものがある。今回はリンゴを試料に用い、簡単な実験を通して褐変の原因やその予防について学ぶ。
138	病院での食事の現状について	調所 勝弘 (臨床栄養学)	自炊から始まった病院の食事は現在、医療の一環として提供され、患者の病状に応じた栄養量を与え、質の向上と患者サービスの改善を目指しています。このように供される病院の食事の現状を解説します。
139	腎疾患患者における食事療法	中西 員茂 (医学・腎・高血圧・透析療法)	腎疾患患者における食事療法の重要性について述べる。食塩制限の高血圧・循環器疾患・腎疾患における重要性は周知のごとくであるが、その方法について詳細に述べる。また、慢性期の腎疾患・透析患者におけるリン制限の重要性は、健康者のアンチエイジングにもつながり、興味深い分野である。この点について最新の研究結果も紹介しながら述べる。
140	食べものとアレルギー	原 正美 (給食経営管理論)	食物は生命維持に不可欠なものです。その食物が免疫学的機序を介して異物と判断されるとアレルギー症状があらわれます。本来体を守るべき免疫が、自己を攻撃する不思議さを考えてみましょう。
141	食品衛生と食中毒	梶田 和彌 (食品衛生学)	現在問題になりやすい食中毒や実際に起こった食中毒事件を中心に、原因微生物の特徴を踏まえた食品管理の問題点や食中毒の予防方法について解説する。
142	ご飯食のすすめ	横塚 昌子 (栄養学)	日本人の主食は米である。米は炊いて「ご飯」として食べる。「ご飯」を食べるとどのような味がして、消化されると体内でどのように変化していくのかを探ってみる。

## <食安全マネジメント学科>

講座 No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
143	お米のことをもっと知ろう	秋山 久美子 (食品化学)	うるち米ともち米の違いは何か。古米、新米の見分け方はどうするのか。玄米から搗精していく過程でぬか層はどうなっていくのか。簡単な 実験を行いながら説明していく。
144	食品の安全性と機能性	梅垣 敬三 (食品衛生学)	健康効果などを標ぼうした食品の安全性と機能性の実態、およびそれらの食品の選択および安全かつ効果的な利用法について解説する。
145	主要臓器の位置とはたらき	曾田 功 (生物学、生化学)	主要臓器の位置とはたらき、血液循環系における相互の関連性について解説する。
146	宣伝・広告を読もう	高尾 哲也 (食品科学・食品加工学)	なんとなく“身体に良い”と思いませんか。宣伝・広告を疑って読むと、いろいろな事が見えてきます。いつもより、ちょっと詳しく読んでみませんか。
147	食品の表示を読もう	高尾 哲也 (食品加工学・食品科学)	食品に書かれている表示は、多くの事を私達に教えてくれます。ともすれば、包装に書かれているイメージで商品を選択してしまいますが、その前に表示をチェックしてみましょう。

〈環境デザイン学科〉

講座No	講座名	講師 (専門分野)	講義概要
148	日本人と畳	磯野 さとみ (日本建築史・日本住居史)	今日消えつつある畳敷きの部屋、この「畳」と日本人と住まいとのかかわりについて歴史的に紹介していく。
149	あたらしい建物	金尾 朗 (建築計画・都市計画)	個性やオリジナリティ、地域の個性などが求められている中、デザイナーがどのように新しい建物を考え、想像しているかについて事例を見ながら考えていく。
150	都市とオープンスペース	金子 友美 (建築計画・住居計画)	図と地の関係から「建物を建てる」と「外部空間をつくる」ということを考えます。世界各地の広場や日本のオープンスペースの事例を紹介します。
151	空間のデザインについて	杉浦 久子 (建築デザイン)	都市、建築、インテリアなどの領域を越えてスペース・デザインという視点から私たちの暮らす場所を考察する。最新の実験的なプロジェクトを参照しながら、身近なスペースを新たな観点から見直してゆく。
152	渋谷駅・東京駅・新宿駅という建築	田村 圭介 (建築計画・意匠)	一日300万人の乗降者数をもつ渋谷駅や新宿駅の仕組みはどうなっているのか。そしてそれらはどのようにしてできたのか。渋谷駅も新宿駅も1885年にそろう誕生した。いずれも利用者の増加にともない時代時代の要請を受けながら地上と地下へと増築を繰り返し現在の姿がある。その生物のように増殖してきた建物についてのお話である。東京駅についても触れる。
153	室内環境と健康・快適	堤 仁美 (建築環境学)	現代社会において、私たちは一日のほとんどを室内で過ごしています。そのため、知らず知らずのうちに室内の環境からの影響を受けています。本講座では、室内環境と人間の健康性や快適性の関係について解説します。
154	家とインテリアの心理学	友田 博通 (環境心理学)	家や部屋は、他の人々との距離を調整し、自分だけの生活や家族だけの生活を保障してくれます。毎日長い時間を過ごす自分の部屋やリビングを人間と人間・空間と人間・文化と深層心理・流行と表層現象といった環境心理学の視点から考え直してみませんか？
155	三匹の子豚のおうち	中山 栄子 (材料学・環境科学)	私たちの住まいは“何”で“どう”いう風に“作られているのでしょうか？ 三匹の子豚さんのストーリーをお借りして、風土や文化に根差した住まいについて、一緒に考えてみましょう。 (環境科学分野:PM2.5の見える化 と言ったテーマでもお話は可能です。)
156	すまいと生活 ～子ども部屋を考える～	番場 美恵子 (住生活学)	幼児、小学生、中学生、高校生…同じ子どもでも、成長段階で必要なものは変化し、当然求められる子ども部屋も異なります。その実情とあるべきカタチをみていきましょう。
157	古い建物を保存して活用する方法を考えよう	堀内 正昭 (建築史)	皆さんのまちにある歴史的な建物を保存する意味は何でしょうか。建物は活用してこそ意味があります。ここでは具体的な事例を紹介しながら、保存活用について考えてみます。
158	建築に潜む力の流れを垣間見る	森部 康司 (建築構造・構造設計)	近年、ファッションやCMの背景として、建築家のデザインした美しい建物が取り上げられることが増えてきた。そうした建物では一見すると特徴的な外観やインテリアにばかりに目が行きがちだが、その裏には厳格な力学の世界が潜んでいる。そんな厳格の世界の一端を解説する。
159	ビジュアルコミュニケーション	伊藤 兼太郎 (ビジュアルデザイン)	消費の対象がモノからコトへ変化するなかでは、ビジュアルデザインの果たす役割も大きく変化してきている。本講義では昨今のビジュアルデザイン領域の試みを解説する。
160	モノのカタチの不思議	橘 倫央 (プロダクトデザイン)	蚊取り線香は、なぜ渦巻き状の形なのでしょう。それは、小さい面積で使用時間を長くする工夫と、製造・運搬において非常に効率的なためです。私達が普段使っている製品の形には、理にかなった意味があります。この講義では、事例を基にプロダクトデザインの役割を解説します。
161	「デザイン・ビフォア・アフター」	中田 士郎 (プロダクトデザイン)	現代の生活の中には様々な問題(社会的、人為的、物理的、身体的…)があります。それらの解決方法のひとつがデザインです。数々の事例を解説し、ビフォア・アフターでの変化にデザインがどう関わったかを考察していきます。
162	紙とデザイン	桃園 靖子 (プロダクトデザイン)	私たちの生活の中には、とてもたくさんの紙が存在します。紙一枚がデザインと出会うと、どんな可能性を纏うことができるのでしょうか。目で感じ、手で触れながら紙のプロダクトについて考えます。
163	ファッションが生まれるまで —アパレルの企画・生産—	石垣 理子 (被服構成学・アパレルデザイン)	人々の生活を豊かに彩るファッションの中心にある衣服。シーズンごとに人を魅惑する新しいスタイル。これらはどのように生み出されてみなさんの手に渡るのでしょうか？アパレル(既製服)の企画、生産、販売の流れを追いながら、ファッションビジネスの一端を覗いてみませんか？
164	くらしと繊維	小原 奈津子 (材料学)	地球に暮らす現代人として、科学技術が生活にもたらす恩恵や弊害を客観的に捉え、考える能力が求められています。この授業では、くらしのなかで接している物質の中でも特に繊維材料の性質や機能が現れる仕組みを解説します。
165	染色のデザイン —型染のコースター—	下村 久美子 (被服整理学・染織)	日本の工芸染色の手法の中から、絞染、ろうけつ染め、糊染のデザインの特徴を解説します。また、型染のコースターを染めてみましょう。「染色とはどういう現象？」についても触れていきます。
166	靴の素材とデザイン	角田 由美子 (被服造形科学)	靴の素材とデザインについて実験データをもとにわかりやすく解説します。靴内の環境を快適に整える素材とは？足に合う靴とは？靴音のする靴とは？早く歩ける靴とは？きれいに歩ける靴のデザインとは？など靴について考えてみましょう。
167	見えないデザイン	石井 大介 (デザインアプローチ)	世の中に溢れる“見えるもの”。人はそこにデザインを連想しがちですが、同じくこの社会に“見えないデザイン”はあるのでしょうか。ドアの閉まる音や香水の匂い、椅子の座り心地。更に、お店のサービスや地域での新しい教育手法はデザインと呼べるのでしょうか。この講座では、様々な視点から現代におけるデザインの役割を考えます。
168	地方がおもしろい	内田 敦子 (地域デザイン)	日本各地で様々なまちづくりが行われています。しかも行政主導ではなく、地域住民が中心となって取り組まれている事例も多く、多種多様です。それはどのような取り組みなのでしょう。地域住民が自分たちの住んでいる地域を盛り上げている施策を紹介します。
169	デザイン・デザイン	藤澤 忠盛 (デザイン構想・意匠設計)	数多くのスライド・映像を使い現代デザインをユニークに紹介します。ベルボトムジーンズはなぜ裾が広がっているの？ボカリスウェットのパッケージデザインはなぜ青色なの？国旗の色の意味は何？パリコレの洋服は本当にいいデザインなの？未来の車はどんな車？建築家はなぜ変わった建物を建てるの？などデザインの謎と真相に迫ります。